# 沖縄県護国神社社報

# うむい22号

## ～終戦70年を迎えて～

**社報「うむい」について**

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

# 戦後七十年を迎えて

会長　座喜味和則

去る八月十五日の終戦記念日に政府主催「全国戦没者追悼式」が日本武道館で天皇皇后両陛下ご臨席のもと全国の戦没者遺族及び各界代表者六千五百名が参列して厳粛に挙行されました。私はこの式典における天皇陛下の「おことば」を毎年拝聴して居りますが今年は七十年のお気持ちを示されたのを感じました。ここに陛下の「おことば」を記述しますが傍線の個所が今回のお気持を表された個所であります。

天皇陛下のおことば

『「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり戦没者追悼式に臨み、さきの大戦もおいて、かけがえのない命を失った数多くの人々と、その遺族を思い深い悲しみを新たにいたします。終戦以来既に七十年、戦争による荒廃からの復興、発展に向け払われた国民のたゆみない努力と、平和の存続を切望する国民の意識に支えられ、我が国は今日の平和と繁栄を築いてきました。戦後というこの長い期間における国民の尊い歩みに思いを致すとき、感慨は誠に尽きることがありません。ここに過去を顧み、さきの大戦に対する深い反省と共に、今後戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願い全国民と共に戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し心からなる追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

陛下のお気持ちを察し感激致しました。今後更に一層、大御心にお応えしなければならぬ決意を新たにしました。

前日の十四日に安倍晋三総理大臣は閣議決定の「戦後七十年談話」を発表されました。終戦五十周年の小泉純一郎首相が「談話」で述べられた「侵略」「植民地支配」「痛切な反省」「心からのおわび」の四つのキーワードは安倍首相も引き継ぎ歴代内閣の立場は今後とも揺ぎ無いと踏襲された事は当然と思います。当初は「侵略」と「おわび」については触れないお考えの様でしたが各界の意見を取り入れて最終的に引き継ぐと述べています。沖縄の地上戦や広島・長崎の原爆投下、東京をはじめ各都市への空襲による犠牲者への弔慰、核兵器の廃絶にも初めて触れられた。

その外に、いかなる武力の威嚇や行使も国際紛争を解決する手段としては二度と用いてはならないと不戦の誓いや、戦争に何ら関わりのない私達の子や未来の子どもたちに謝罪を続ける宿命を背負わせてはならない、これは今を生きる私たち世代の責任だと述べ、次に到来する戦後八十年、九十年、百年に向けての決意を披瀝されたことは安倍総理の率直なお気持ちを表された事と存じます。二度と過ちを起こさない不戦の誓いを堅持して国際的に誇れる日本を創り上げていく事が今を生きる私達の責務と痛感しています。





# 戦後七十年の想い

宮司　加治順人

沖縄も戦後七十年目の夏を無事に送ることができました。常の年にも増して、さまざまな方面からの有難いお志をいただく機会がありました。

天皇陛下には、全国五十二の護国神社に対して幣帛料が御下賜されました。幣帛料とは古来、帝からの正式な賜り物といえば衣であったことに由来します。

沖縄県護国神社におきましては、これまで幣帛料や幣饌料（お供え）を十度以上にわたって賜っており、その都度、御英霊に奉告申し上げるための奉幣祭を斎行してきました。今年は秋季例大祭と合わせて十月二十三日に「終戦七十年臨時奉幣祭並びに第五十七回秋季例大祭」をいたします。

また、去る六月二十三日の沖縄慰霊の日には、靖國神社から徳川康久宮司を初めて弊社にお迎えいたしました。祭典の中で祭文を奏上され、祭典後に記念講演を行っていただきました。

それに先立つ六月二十一日には、弓馬術礼法の小笠原教場三十一世である小笠原清忠御宗家の御教導のもと、全国から同門の方々に参集いただき、終戦七十年記念「鎧着初め式・三三九手挟式」が厳粛に斎行されました。通常は還暦の方に鎧を着ていただき、その長寿を祝うところ、格別の御計らいで昭和二十年生まれの方々に着ていただきました。

いろいろと特別なことが続く七十年目です。そうはいっても、七十年という歳月は長いようでいて、ご遺族の方にはすぐ手元に思い出を取り出せるほどの短さなのかもしれません。

前号の『うむい』に載せた私の文章を読んで、お父様の思い出を長いお手紙にして下さった大阪の方がありました。少しご紹介させていただきます。

当時四十三歳で応召し糸満市真栄平で戦死されたお父様は、初めての実戦で昭和十九年の暮れに沖縄に来られました。ご家族への便りで、十・十空襲後の那覇の町や人々の暮らしぶり、宿舎となった小学校の状況などを綴られたそうです。

当時の本土はまだ都市空襲の前ですから、沖縄の惨状に心を痛め、「これを思えば本土の人は結構です」と一番上のお嬢様への葉書に書いてあったようです。

昭和二十年二月に消印がついた葉書には、三姉妹で協力して母を護れと走り書きがされ、それが最後となりました。

戦没地に「真栄平」と書かれた公報は、昭和二十二年の末になってようやく届いたそうです。

淡々と書かれた文章から、この方のお父様への想い、遠い沖縄で家族を想ったお父様のご苦労が偲ばれ、胸に迫るものがありました。大切に複写を取り、ときどき読み返しています。

また、この五月、千葉県から箱いっぱいに筍と蕗を送ってくださった方がありました。同封された手紙には短く、明治大学在学中に特攻隊員として沖縄へ向かった先輩に筍一本と蕗一把をお供えし、あとは食べてほしい旨が記されていました。

七十年の節目に同郷の先輩を想い出されたのかもしれません。

ご親族であれば仏壇やお墓にお参りできますが、ご友人やお仲間など、懐かしい人にお参りするすべのない方々にとって、私共の神社には格別の意味があることに改めて気づかされます。

このように思い出を記した手紙を添えて、ご自身で収穫された食物を送ってくださる方がときどきあります。大切な人に故郷の美味しいものを食べていただきたいという想いは、七十年を経ても褪せることがないのでしょう。

「節目の年」とはいえ、人の想いに簡単には区切りがつきません。これまでも、これからも、皆様の想いに応えていく神社でありたいと考えています。

## 第五十七回春季例大祭

四月二十三日午後一時春季例大祭が斎行されました。加治宮司の祝詞奏上の後、大祭委員長座喜味和則氏、沖縄県遺族連合会会長照屋苗子氏による祭文が奏上され、続いて茶道裏千家淡交会沖縄支部の御奉茶、航空自衛隊那覇基地太鼓部による太鼓奉納、巫女によるみたま慰めの舞が奉奏されました。

祭典に先立ちまして恒例となりました田場盛信氏による民謡ショーが奉納されとても賑やかな祭典になりました。

## 終戦七十年記念 鎧着初め式・三三九手挟式奉納

六月二十一日、梅雨明けの本格的な夏の日差しが照り付ける中、小笠原清忠宗家の御教導の下、終戦七十年記念奉納鎧着初め式並びに三三九手挟式が行われました。

初めに拝殿にて奉納奉告祭を執り行いましたが、装束を身に纏った皆様が一列に参進する姿はとても鮮やかでした。

鎧着初め式は本来、還暦を迎えた方に鎧を着ていただき長寿を寿ぐ儀式ですが、今回は沖縄戦から七十年の節目であることにちなみ、昭和二十年生まれの方々に参加していただきました。

沖縄県遺族連合会副会長大城竹明氏をはじめ七名の方に鎧を着ていただきました。

沖縄県の人口分布をみますと昭和二十年生まれの方が極端に少なくなっています。言うまでもなく苛烈な戦争の影響によるものです。こうして、満七十を迎える方々がこの日、鎧を着て長寿を祝う儀は感慨無量の思いでした。

また、三三九手挟式は小笠原流弓術の一つで、武家に於いて一月四日弓始に限り執り行われた厳格な弓の儀式で、天下泰平を祝う射礼と言われており鎌倉時代から続いているようです。

今回は境内にて参道を挟み行われ、参列者一同が見守る中、弓を射る音、矢が風を切る音、的に当たる音が厳かで射手の方々の気迫が伝わってきました。

神道に於いて弓矢とは、破魔矢がよく知られるところですが、矢は邪気・殺気・陰気など悪しき気を射、弓はその音によって邪なるものを祓い清めると信じられております。射手の方々が持つ弓から矢が次々と放たれるその音が戦後七十年目の沖縄を邪気と災厄から祓い清められているようでした。

本殿に静まります御英霊も沖縄では初めて行われるというこの儀式をご覧になりさぞお喜びになったことと思います。

## 戦後七十年沖縄全戦没者慰霊祭 靖國神社徳川宮司ご参列賜る

六月二十三日、戦後七十年沖縄全戦没者慰霊祭が正午の黙祷に合わせ斎行されました。終戦から七十年の節目の本年は靖國神社より徳川康久宮司のご参列を仰ぎ、祭典では祭文を奏上賜りました。参列者も例年に比べ多くのご参列を頂き厳かな慰霊祭を執り納めました。

祭典後は沖縄から日本を考える学生の会との共催で、「沖縄全戦没者慰霊祭特別講演会並びに第五回島守防人に感謝する集い」が社務所大ホールにて行われました。特別講演では「七十年という節目において」と題し徳川宮司より講話を頂戴致しました。

講演では、靖國神社の参拝者は本年非常に増えていますが、その反面ご遺族の高齢化が進み今年で最後の参拝になるとの声も多く耳にしていることや、若い世代のご遺族では遺族である意識が薄れて来ているとお話されました。また本年は終戦より七十年が経ちましたがご英霊が望んでいる世の中になっているのかを考える年としたい、世界平和を語るのは日本軍米軍ともに散華したここ沖縄の地が相応しいのではないかと述べられ、出席者一同戦後七十年を改めて深く考える会となりました。

講演会終了後は恒例の沖縄から日本を考える学生の会による「殉国沖縄学徒顕彰七十年祭」が宮司斎主のもと斎行されました。

さらに、会場を市内ホテルに移し、徳川宮司を囲む懇親会が日本遺族会会長で参議院議員の水落敏栄氏を始め関係者出席のもと和やかに開かれました。

また、この日は糸満市摩文仁の平和祈念公園において沖縄県主催による「戦後七十年沖縄全戦没者追悼式」が正午より行われ、本年も安倍首相のご臨席のもと斎行されました。この追悼式前の午前中には日本遺族会と沖縄県遺族連合会共催により「第五十四回沖縄平和祈願慰霊大行進」が開催され、糸満市役所から平和祈念公園までの約十キロの道のりをご遺族が平和行進し慰霊の誠を捧げております。

## 終戦記念日みたま祭り

八月十五日正午よりみたま祭りが英霊にこたえる会沖縄県本部共催、沖縄県遺族連合会、日本会議沖縄県本部の後援により斎行されました。国会議員三名（内一名代理）をはじめ陸・海・空それぞれの自衛隊司令の他、約百二十名のご参列を賜りました。正午より黙祷を捧げ、日本武道館で行われている全国戦没者追悼式に御臨席の天皇陛下のお言葉を参列者と共にラジオから拝聴致しました。祭典では国歌斉唱、祝詞奏上のあと英霊にこたえる会沖縄県本部副会長照屋苗子氏が祭文を奏上しました。

祭典後は社務所大ホールにおいて「パラオに見る沖縄と日本の誇り」と題して産経新聞編集委員（産経新聞前那覇支局長）宮本雅史氏による記念講演会が行われ大勢の方が拝聴致しました。

# 終戦七十年を迎えて

沖縄隊友会　沖縄偕行会会長
沖縄県護国神社　総代
藤田　博久

**秋待たで　枯れゆく島の青草は**
**皇国の春に　甦らなむ**

第32軍司令官として沖縄戦を指揮・統御し昭和二十年六月二十三日に摩文仁の丘で自決しその最後を遂げた牛島満陸軍大将の辞世である。戦後七十年にあたり牛島軍司令官の思いに浸りたいと思う。

私がこの辞世に初めて接したのは中学生の頃であったと思う。当時は、戦火で焼けた草木が翌年の春には息を吹き返し蘇って貰いたいとの思いという程度に考えていたと記憶している。

昭和十九年十月十日の米軍による大規模な空襲攻撃、翌二十年三月二十六日の慶良間列島への上陸、大規模な艦砲射撃そして四月一日の読谷・北谷・嘉手納への米地上部隊の上陸から約三ヶ月に及ぶ戦闘により約二十数万人もの県民・軍人が戦火に倒れ散華した。この戦火に倒れた多くの青草がいつか甦り、平和で豊かな営みを得られる「春」が訪れることを強く祈る牛島軍司令官の思いが込められた時世であるとの思いを抱いたのは、防衛大学校で戦史を学んだ頃である。

沖縄戦の後、本土決戦に備える日本に対し米軍による八月六日の広島、八月九日の長崎への原爆投下が為され、八月十四日のポツダム宣言受諾、そして八月十五日の玉音放送、九月二日の降伏文書調印となり大東亜戦争の終焉となった。

七年後の昭和二十七年四月二十八日のサンフランシスコ講和条約の発効により日本はGHQの統治下から外れ、沖縄は米国施政権下に入った。そしてその二十年後の昭和四十七年五月十五日「沖縄の祖国復帰」が実現した。

この二つの歴史事実は戦後のわが国の大きな変換点であることは紛れもない。

戦後のわが国は目覚ましい復興と発展を遂げ画期的な蘇りを図ることができた。この平和と経済の発展と文化の継承は努力せずして得られたものではないことを我々はしっかりと認識しなければならない。

太平洋・東南アジアの各地で、沖縄で、日本本土で戦火に散った青草はこの七十年の間に蘇り新たな日本の平和を享受して戴けただろうか。或いは、戦犯として裁かれた方々は戦勝国アメリカによって牙を抜かれ中国や朝鮮から干渉を受けて自虐的思想に侵されている我が国の状態に臍を噛んでおられるのだろうか。

また、中国の太平洋進出、尖閣を含む琉球列島侵略を危惧しておられるのだろうか。いずれにしても我々現在を生きる者は国を守るために命を擲った先人への感謝の気持ちを忘れず平和と独立を守る努力を続けねばならない。折しも先日、積極的平和外交を可能にする安全保障関連法案が可決された。

**矢弾尽き　天地染めて散るとても**
**魂還りつつ　皇国守らん**

合掌

前沖縄県遺族連合会会長
沖縄県護国神社　監事
照屋　苗子

今年は、あの地獄のような熾烈を極めた地上戦の組織的な戦闘が終結して七十年目の大きな節目の年となります。

国内で唯一地上戦が展開され、二十万余の尊い生命を犠牲にし、昭和二十年六月二十三日に沖縄戦が終結したのでした。県はこの日を県条例によって「慰霊の日」と制定し、沖縄戦の終戦記念日としました。

私達遺族にとって最愛の肉親、夫を、父を、兄弟姉妹を、我が子を無くした悲しみは筆舌に尽くし難く、深いものがあります。

私も、父、祖母、姉、幼い弟、妹の家族五人を亡くし心に大きな穴がぽっかりとあき、数年間その状態が続いていました。

特に、人生最大のショックを受けたのは、南部における逃避行の最中での出来事でした。砲弾の嵐の中を昼はきび畑や岩陰に隠れ夜は無数の死体を避けながら人混みの中を彷徨い、岩陰を探し求めてひたすら歩み続けたことでした。

途中、偶然にも適当な場所を見つけ、そこに避難することにした、暫くして野戦看護婦をしていた姉が面会に来てくれました。そのとき惨劇が起こったのでした。米兵に気付かれ迫撃砲を撃込まれ、入り口にいた祖母、姉、幼い弟が一瞬にしてこの世から消え、同時に数家族も犠牲になりました。瞬時の出来事でただ呆然失意の状態になり、気が付くとあたり一面、血と肉片が飛び散り、私にもべっとりとつき、正にこの世の地獄でした。三人は即死でした。

私達兄妹三人と母は、失意のどん底に沈み、家族の会話も暫くの間皆無でありました。

それでも母は、生き延びなければならないとの思いが強く、私達を必死に守りながら首里に向かって摩文仁の海岸を歩いているとき、捕虜になり、辛うじて久志村の二見にある捕虜収容所にたどりつき終戦を迎えたのでした。

母は面倒見がよく世話好きで温厚な人でした。神経質なところはありましたが、心の強さは人一倍で、家族五人を亡くした悲しみや心の痛みに耐えて私達を育ててくれました。

終戦直後の極度の食糧難の時代に、なれない商売をしながら黙々と働き精一杯の愛情をこめて、私達子供三人を育ててくれました。自分は口にしなくても常に食事を与えてくれたのでした。

私はそのような母の後ろ姿を見て育ちました。自分も母のような心の強い逞しい人間になりたいと常々思っています。

そのような母ではありましたが家族を亡くした心労が重くなり何時の間にか煙草をおぼえるようになり六十八歳で肺癌を患い他界したのでした。

母には天寿を全うしてほしかったです。

歳月の過ぎるのは早いもので、今年は終戦七十年。終戦直後に誕生した赤ちゃんでも七十歳の高齢に達しているのが現実です。

戦争を実体験した人は激減して数年で戦争の惨さを訴えられる人は極く少人数になるのは明らかです。

そのようなことで常日頃から、あの忌まわしい戦争の惨さや、命の尊さを、平和の大切さを、子や孫に語り継がなければならないと思います、このような家庭内での会話が平和への原点につながるものと信じます。

# 終戦七十年靖國神社参拝及び遊就館見学ツアー　参加者の感想

今年終戦七十年、先の大戦に於いて国家のために命を捧げられた英霊を祀る靖國神社に参拝が出来ました事感謝いたします。何度か靖國神社を訪れましたが神社昇殿参拝はまれで、また徳川宮司様の歓迎の御挨拶、記念撮影など一生忘れることのできない参拝でした。妻も始めての靖國神社、遊就館に感動していました。遊就館に於いては家族への便りを読んで多くの展示物等に痛感致しました。　大城竹明・利枝子

今回の旅行誠に有り難く思いました。人生で最大の意義ある忠誠心の日本魂を垣間見る事が出来ました。兄貴と共に忠誠心をまっとうする思いです。　宮城　正春

六十五才で初めて靖國神社を参拝したのですが、バスより神社の境内に降りたら大きな鳥居、桜の木々、神殿の厳かさが目に入りました。今回は沖縄県護国神社の計らいで一般では参拝できない正殿に上がっての参拝で貴重な体験をすることが出来ました。また遊就館では、沖縄戦の特別展示がされており改めて平和について考えさせられました。　座喜味　盛邦

終戦七十年目に節目ということで靖國神社参拝ツアーを企画していただき、初めて遊就館を拝観することが出来ました。沖縄戦特別展示、御英霊の遺書や遺品等があり、戦争で散華された御英霊のみここに触れることができた貴重な体験となりました。また徳川宮司様による歓迎の挨拶、滅多にできない昇殿参拝をさせて頂き感激致しました。今回有意義なツアーに参加させていただきありがとうございました。　大城　未来

総理大臣を始め、国会議員は全員が参加すべきであると思います。　當山　正範

とても貴重な体験が出来てよかったです。すべてが初めての事で楽しかったです。　伊差川　真理奈

靖國神社は初めての参拝でした。大東亜戦争のドキュメンタリを見て、沖縄県民の知らない戦争の始まりがよくわかりました。沖縄県護国神社でも上演してください。　友利　日出夫

戦争を改めて体験し、学び、とても勉強になりました。神社参拝ではとても感激しました。　鶴田　信弘

靖國神社の参拝は十九才の時沖縄県遺族連合会の団体、若いお母さんと、青年達でした。以来約五十年、何回参拝したかわかりません。父や母、祖母のことなど過去のことが思い浮かびます。健康を願いつつ生きている限り参拝を続けます。沖縄県護国神社の呼びかけがあり喜んで参加しました。今後も企画してください。　赤嶺　和雄

遊就館を見学して改めて戦争を学び、また先人の方々の素晴らしさに、尊敬、感謝しました。靖國神社参拝では貴重な体験をさせていただき感激しました。神社の雰囲気、建物の素晴らしさ、今回参加して本当によかったです。　中村　哲

毎年、護国神社には初詣で家族の健康と幸せをお願いしてきました。しかし今日あらためて、戦争で亡くなった方々のお姿を見させて頂きました。戦争で亡くなった方々のおかげで現在の生活があることを子供たちに伝えていきたいです。　金城　成志

初めて観光するところばかりでしたので感動の連続でした。2泊3日とても嬉しく良い体験をさせて頂きました。ありがとうございました。　伊差川　宏子

戦後七十年初めて靖國の地を訪れました。胸のつかえが取れた様なとても感慨深いものがありました。遊就館では、亡くなられた方その写真を拝見し、当時の兵隊さんの姿が浮かびました。とてもいい旅でした。　古波鮫　マサ子

改めて靖國神社の大きさを感じました。戦後七十年の節目に参拝出来た事は、とても有意義な事で、平和のありがたさを感じた1日でした。　向笠　安子





# 終戦七十年記念事業の境内整備について

沖縄県護国神社では終戦七十年記念事業として、境内地南側の未整備であった土手部分にて造成工事を行い、①車道設置②古神札焼納所設置③駐車場整備④フェンス設置することを計画致しました。平成二十七年八月七日に安全祈願祭を行い（写真2）工事を進めてまいりましたが、十月大祭を間近に控え無事竣功致しました（写真1・3）。

境内地南側斜面は新社務所造営時にもほぼ手つかずで、土のままであり、豪雨などにより少し崩れるところもあり、また急傾斜の為玉垣が斜面側に傾くおそれもあったため造成工事を行うこととなり、付随して下記の工事をおこないました。

まず①の車道整備は、台風後の境内清掃や大祭準備などでの作業車の利便性を重視し設置しました。御神前に車を進めることなく作業を行うことができます。また、正月の緊急車両の通行が非常に容易になり、より迅速に対応が可能になります（参拝者の皆様がより安心してお参りできるようにと考えております）。

また②の古神札焼納所は現在まで仮設での焼納を行ってまいりましたが、耐火煉瓦を使用した新しい古神札焼納所を設置しました。1月15日の焼納祭や大祓神事などで使用致します。

③の駐車場につきましては、今までも祭典や茶会などで臨時の駐車場として使用しておりましたが、地面が土のままのため、降雨により足元が悪く使いづらい状態が続いておりました。今回、アスファルト舗装をすることにより駐車が容易になり、線引きを行い駐車台数も増えることとなりました。

最後に、④境内地と公園土地の境界にフェンス設置をすることにより、境界線が明確となりました。以前は当社車道が公園の子供広場に隣接しているため公園利用者が知らずに入り込み、テニスや自転車の運転、スケボーなどをし交通事故の危険性もありましたが、その心配が少なくなりました。

いずれにしましても、斜面の造成により御社殿・玉垣が堅固に護持され、参拝の皆様がより安全安心にお参りすることができるようになった事と思います。皆様の御協力御理解をいただきます様よろしくお願いします。

（写真1）完成図

（写真2）before

（写真3）after

# 社務日誌抄

平成二七年四月～平成二七年九月

## 4月

3日　石垣家・フーベルト家神前挙式
6日　岡山県牛窓神社宮司　岡崎義弘様　参拝
7日　天皇皇后両陛下　帛琉行幸啓安泰祈願祭
10日　天皇皇后両陛下帛琉還幸啓奉告祭
22日　**宵宮祭**
23日　**第五十七回春季例大祭**
28日　英霊の言の葉を語り継ぐ集い（波上宮にて）
29日　**昭和祭**　昭和天皇のご聖徳を伝えつぐ集い

## 5月

3日　茅原書藝会正式参拝　新しい憲法を作る県民の集い
5日　生天光神明宮例大祭　宮司参列
8日　念法眞教自由参拝
11日　沖宮例大祭　宮司参列
15日　**祖国復帰記念祭**
16日　頑張れ日本全国行動委員会　正式参拝
17日　波上宮例大祭　宮司参列　那覇遺族会正式参拝
20日　岐阜県神道振興会正式参拝　群馬県神社庁高崎橋支部　正式参拝
27日

## 6月

9日　滋賀県遺族会正式参拝　しづたまの碑慰霊祭
17日　宮司・屋宜巫女奉仕　局長参列
20日　札幌市連合遺族会正式参拝
21日　熊野速玉大社宮司　上野顕様正式参拝
22日　**小笠原教道弓術奉納奉告祭**　海上挺身隊慰霊祭　西谷襴宜奉仕
23日　埼玉県遺族連合会正式参拝　勇魂の碑慰霊祭　宮司・仲巫女奉仕　**沖縄全戦没者慰霊祭**　**殉国沖縄学徒顕彰七十年祭**

## 7月

3日　茶道小笠原流正式参拝
9日　**幣帛料頒幣式靖國神社参集殿にて**
12日　禄志会正式参拝　美しい憲法をつくる県民の会発足会
19日　前原・木村権襴宜参加　国場議員を語る集い　会長出席
25日

## 8月

7日　総代会　終戦七十年記念境内整備斜面造成工事安全祈願祭
15日　**終戦記念日みたま祭り**
18日　群馬県遺族の会正式参拝
22日　対馬丸慰霊祭　会長参列

## 9月

10日　英霊にこたえる会正式参拝
12日　真和志遺族会正式参拝
13日　日本会議女性の会正式参拝
15日　念法眞教自由参拝
24～26日　靖國神社参拝旅行
27日　茶道裏千家淡交会沖縄支部　正式参拝
30日　**水無月大祓式**

第五十七回春季例大祭の様子（4月23日）▼

### これまでの幣帛料・幣饌料御下賜一覧

**昭和40年11月19日**　沖縄県護国神社遷座　幣帛料
**昭和47年5月15日**　沖縄復帰奉告戦没者慰霊祭　幣帛料
**昭和50年11月23日**　第17回秋季例大祭並びに終戦30周年記念大祭　幣帛料
**昭和60年10月23日**　第27回秋季例大祭並びに終戦40周年記念奉幣祭　幣帛料
**平成5年4月23日**　第44回全国植樹祭御臨席につき　幣饌料
**平成7年10月23日**　第37回秋季例大祭並びに終戦50周年記念奉幣祭　幣帛料
**平成16年1月23日**　沖縄県内事情御視察（国立劇場おきなわ開場）につき　幣饌料
**平成17年10月23日**　終戦60周年臨時奉幣祭並びに第47回秋季例大祭　幣帛料
**平成24年11月17日**　ゆたかな海づくり沖縄大会御臨席につき　幣饌料
**平成26年6月26日**　小桜の塔御拝礼並びに対馬丸記念館御視察につき　幣饌料

幣帛料

### 今後の主な祭典のご案内

- 12月23日　天長祭
- 12月31日　大祓式・除夜祭
- 1月1日　歳旦祭
- 2月11日　紀元祭
- 4月23日　第58回春季例大祭

どなたでもご参列できます。





# 奉納者御芳名

成二十七年四月～九月（順不同）

**永代慰霊命日祭新規申込者**

福岡県春日市　古賀　富士子　様
大分県大分市　姫野　隆道　様

**永代慰霊命日祭御供**

沖縄県那覇市　伊志嶺　幸子　様
三重県志摩市　杉木　茂樹　様
北海道札幌市　櫻井　朋子　様
岐阜県美濃市　纐纈　信義　様
神奈川県鎌倉市　関　政子　様
北海道札幌市　櫻田　スミ子　様
愛知県犬山市　吉野　そと子　様
三重県津市　吉川　つや　様
北海道札幌市　天野　喜美　様
埼玉県鴻巣市　菊地　周一　様
千葉県八街市　黒木　陽一郎　様
東京都西多摩郡　須崎　幸子　様
北海道札幌市　岩井川　君子　様
岐阜県岐阜市　江崎　明美　様
北海道札幌市　中村　キク　様
北海道函館市　伊藤　和子　様
北海道札幌市　絹川　美智子　様
岩手県花巻市　瀬川　タエ　様
広島県福山市　渡辺　勝之　様
福島県喜多方市　田中　昭二　様
大阪府寝屋川市　細田　宅彦　様
熊本県山鹿市　岡部　典子　様
北海道苫前郡　土田　千代　様
鹿児島県鹿児島市　吉永　恵子　様
岡山県岡山市　野上　鹿治　様
埼玉県比企郡　福岡　英男　様
愛知県一宮市　後藤　修士　様
宮城県黒川郡　菅原　義則　様
北海道札幌市　高田　長巳　様
北海道北斗市　田島　義勝　様
岡山県総社市　中村　和永　様
愛知県豊橋市　小野　よし子　様
群馬県甘楽郡　中村　三郎　様
北海道上川郡　阿部　辰巳　様
沖縄県石垣市　瀬名波　長宏　様
宮城県仙台市　吉川　明宏　様
愛知県豊明市　平野　克己　様
北海道札幌市　北村　孝子　様
北海道北見市　十良澤　義治　様
徳島県阿南市　幸田　純子　様
茨城県取手市　大塚　幸男　様
神奈川県横浜市　松本　敬子　様
千葉県市川市　松永　修巳　様
北海道網走郡　成田　宏　様
北海道札幌市　沼田　栄二　様
北海道札幌市　加藤　勤　様
東京都江戸川区　岡田　昌久　様
東京都調布市　米澤　務　様
北海道河東郡　高橋　仁　様
滋賀県甲賀市　宿谷　長次　様
佐賀県小城市　藤島　澪子　様
北海道函館市　川口　公昭　様
大阪府池田市　島村　美哉子　様
熊本県熊本市　松尾　雪子　様
沖縄県那覇市　新垣　信正　様
静岡県榛原郡　小坂　シゲ　様
沖縄県那覇市　与那嶺　文子　様
三重県伊勢市　外山　とめ　様
愛知県津島市　加藤　恵一　様
三重県伊勢市　村井　洋子　様
滋賀県栗東市　堀池　四郎　様
島根県雲南市　勝部　昇　様
青森県弘前市　下山　和子　様
沖縄県那覇市　平田　貞子　様
愛知県海辺郡　気田　一郎　様
愛知県　牧　君子　様
福井県福井市　野阪　重信　様
東京都葛飾区　小島　正二郎　様
東京都世田谷区　岩井　富子　様
群馬県富岡市　桜井　勝　様
群馬県高崎市　江積　節子　様
岡山県久米郡　布野　栄　様
京都府八幡市　斎藤　芳子　様
宮崎県都城市　岡元　克司　様
宮崎県都城市　杉元　イツ　様
北海道札幌市　浅田　新一　様
北海道樺戸郡　西永　興屋　様　治　様

**玉串料**

福岡県福岡市　前田　万里　様
禄志会　様
千葉県松戸市　内田　みやこ　様
神前神社襴宜　渡邊　東典　様
鹿児島県鹿児島市　大徳　純雄　様
八重山遺族会女性部長　大山　幸子　様
沖縄県糸満市　末吉　廣美　様
岐阜県神道振興会　様
茅原書藝会カルチャークラス　様
チャンネル桜頑張れ日本全国行動委員会　様
那覇遺族会　様
濃飛護國神社　様
飛騨護國神社　様
岐阜護國神社　宮司　田中　宏　様
茶道裏千家　宮司　宇都宮　幸嗣　様
滋賀県遺族会　様
北海道札幌市　三浦　末吉　様
三浦　義明　様
中島　安雄　様
沖縄県沖縄市　崎濱　秀平　様
九州不動産専門学院　理事長　小菅亥三郎　様
北海道札幌市　西川家　様
北海道札幌市　三浦　末吉　様
北海道札幌市　朝倉　孝志　様
北海道札幌市　安藤　和子　様
北海道札幌市　松村　豊明　様
富岡　恵美子　様
北海道札幌市　近江谷　雅子　様
札幌市遺族連合会　様
熊野速玉大社　様
小笠原教場　小笠原　清忠　様
阿含宗沖縄道場　様
埼玉県遺族連合会　様
埼玉県桶川市　臼田　智子　様
福岡県北九州市　茶屋本　寛喜　様
千葉県勝浦市　福山　富二　様
沖縄県浦添市　大嶺　直子　様
福井県大飯郡　石井　恒二　様
東京都中野区　東原　和明　様
東京都　佐々木真太郎　様
茶道裏千家淡交会沖縄支部　様
千葉県市川市　松下　美枝子　様
群馬県遺族の会　様
沖縄県恩納村　金城　竜郎　様
下地　玲子　様
栃木県神社庁　様
念法眞教　総本山　金剛寺　様
日本女性の会沖縄県支部　様
支部長　久保田　照子　様
天皇陛下奉迎糸満市民の会　様
事務局長　真栄田　強　様
真和志遺族会　様
波上宮　宮司　渡慶次　馨　様
英霊にこたえる会　中央本部　様
英霊にこたえる会　沖縄県本部　様
沖縄県沖縄市　崎濱　秀平　様
京都府八幡市　斎篠　亮司　條　様

**物品**

米・菓子　西村　和子　様
泡盛　川端　塁　様
菓子　根岸　喜代恵　様
筍・蕗　福山　富二　様
日本酒　田村　君江　様

**寄贈書籍**

「ペリリュー島」　富川　昇　様
「マンダラガンの果てに」　森谷　世都子　様
「沖縄の論理は正しいのか？」　岡崎　志子　様
「真の平和に向けて」
「牛島満中将の霊言」　富川昇・春子　様
「英霊に送る手紙」　靖國神社　様
「真の平和に向けて」
「牛島満中将の霊言」　小野寺　勝　様

# 初詣

## 平成28年（申年）の厄年表

| 申年生まれ（新暦） | | 男性（数え年） | 女性（数え年） |
|---|---|---|---|
| 平成16年生まれ | 昭和31年生まれ | 平成4年生 25歳本厄 | 平成10年生 19歳本厄 |
| 平成4年生まれ | 昭和19年生まれ | 昭和51年生 41歳前厄 | 昭和60年生 32歳前厄 |
| 昭和55年生まれ | 昭和7年生まれ | 昭和50年生 42歳本厄 | 昭和59年生 33歳本厄 |
| 昭和43年生まれ | 大正9年生まれ | 昭和49年生 43歳後厄 | 昭和58年生 34歳後厄 |

### 初詣（三が日）のご案内

**祈願受付時間**　8:00～20:00（3日まで）
※なお4日、5日仕事始めの会社祈願の為個人でのご祈願は受付できません。

**お守の授与所**　24時間開設
※なお4日以降は時間の変更がございますのでご確認ください。

詳しくは神社、またはホームページでご確認下さい。

## 平成27年 七五三詣ご案内

**男の子**
かぞえ3歳（平成25年生まれ）
かぞえ5歳（平成23年生まれ）

**女の子**
かぞえ3歳（平成25年生まれ）
かぞえ7歳（平成21年生まれ）

**受付時間**
午前9時～午後4時30分まで

**ご祈祷料**
お祝いのお子様
1人3000円
2人5000円

神社へお参りし、お子様の健やかなご成長を祈念いたしましょう

## 沖縄県護国神社 新職員紹介

出仕　松元 孝太

8月1日付で奉職させていただきました。神職として奉職する前は、自衛官としての勤務経験があり、国防の任に当たる中で、大東亜戦争をはじめ、数多の国難に殉ぜられた諸先輩方に対する慰霊祭祀に関心を持つようになりました。

奉職して約2ヶ月になりますが、御祭神の御前にお仕えできる日々に喜びを感じると同時に、御祭神と人々の仲を取り持つ身として大きな喜びを感じております。神職としては甚だ未熟者ではありますが、御祭神の御心を我が心とし、英霊祭祀並びに本縣における国民精神の教化啓発に専心する所存であります。どうぞよろしくお願いします。

## 正月献灯のお知らせ

お正月の参道を照らし初詣の皆様をあたたかな光でお迎えする提灯のご奉納を今年も賜っております。皆様のお申込みお待ち申し上げております。詳しくはお問合せ下さい。

**掲揚期間**　大晦日～1月10日まで
**奉納金**　1灯　5000円

## 編集後記

今回よりうむいを担当させていただくこととなりました。まだ、未熟ではございますが神社のことを皆様によく知ってもらえるよう努力していく所存です。よろしくお願いします。

発　行　平成二十七年十月
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇-〇〇二六
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL　〇九八-八五七-二七九八
FAX　〇九八-八五七-七九一七
HP　www.okinawa-gokoku.jp/
編集担当　高良　奈緒矢
印刷所　株式会社近代美術